

第 63 回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日 時 平成 28 年 10 月 31 日(水)15:30～17:00

場 所 審議：横須賀市役所本庁舎 302 会議室

出席者：秋岡委員、菊地委員、西堀委員、蛭田委員、藤井委員、山本委員
吉田委員、若江委員

欠席者：崎山委員、

傍聴者：2 名

事務局：文化振興課 小澤課長、福原主査、遠藤主任

-
- ・事務局より、傍聴者 2 名との報告があった。
 - ・事務局より、定足数についての報告があり、委員定数 9 名のうち 8 名が出席しており、過半数を満たしているため、本審議会が有効に成立している旨の報告があった。
 - ・事務局が当座の司会をし、次第に沿って進行した。

【審議事項】

次第 1 委員の紹介

新委員改選後、初めての審議会のため、司会より委員の紹介を行った。

【審議事項】

次第 2 委員長及び委員長職務代理者の選出について

横須賀市文化振興審議会規則（以下、規則という）第 3 条第 1 項に基づき、委員長を委員の互選により推薦を諮ったところ、委員から吉田委員を引き続き推薦する旨の発言があり、異論はなく、吉田彩子委員を委員長とすることに決した。

規定により、吉田委員長を議長とし、次第に沿って進行した。

規則第 3 条第 2 項により委員長が議長となり、委員長職務代理の選出について、規則第 3 条第 3 項に委員長が指名するとなっているので、委員長から山本委員を引き続き指名する旨発言があり、山本詔一委員の了承により決した。

【審議事項】

次第 3 平成 27 年度文化振興基本計画の進行管理について

事務局から資料 3 により説明を行った。

○質疑応答

委員 表の見方の基本的なところを教えてください。6ページの近代歴史遺産の活用が3箇所、8ページにも出てきます。同じ事業内容のものが複数出てきますが、Aの数が4つとカウントされるのか。星がついているものは、文化振興基本計画に例示されているものと思いますが、例示されているものといないものには扱いが違うのかどうか教えていただけますか。

※資料3「文化振興基本計画進行管理結果報告書(案)」の2-(1)
文化振興基本計画 進行管理対象一覧(施策体系別) 参照

事務局 カウントの仕方については、基本計画の構成の中の施策体系別には複数出ていますので、それぞれの性格にそって個々に評価し、カウントしています。進行管理を行う際に、文化振興基本計画の中で、具体的な取り組み例として挙げてきたものを優先し、進行管理が把握しやすいものを挙げていきました。それ以外の事業で、計画を造る際に従前から行ってきたもので引き続き進行管理を行っていった方がよいものは星がついていないものとして、進行管理を行っています。

委員 例えば、6ページの真ん中「2. 地域の身近な歴史や文化の継承」で、(1)と(2)とありますが、片方が星がついていて、片方が星がついていないというのは何かあるのでしょうか。

※資料3「文化振興基本計画進行管理結果報告書(案)」の2-(1)
文化振興基本計画 進行管理対象一覧(施策体系別) 参照

事務局 基本計画の記載のとおりで書いています。ただ、要素として該当するだろうということで、この項目に入れていきます。

委員 同じ項目が何箇所か出てきますが、まったく内容は同じではないのではないかと思いますがいかがでしょうか。例えば、パネル展を行っても展示物は違うように思うのですが。期間が違ったり地域が違ったりか、パネルの出し方は同一ではないように思います。そういう意味では、書き方の問題で、同じタイトルですと間違えますし、場所が違えば見る人も違うと思います。同じ内容にしても持ちまわれば見る人が異なるので、それなりに意味はあると思います。

事務局 昨年度は製鉄所150周年ということで、パネル展は各地でやらせていただきました。題材については少しずつ違うものではあ

りますが、事業としては、近代歴史遺産活用事業としてしているので、このような形で書かせていただいています。

委員 前も話題になったかと思うのですが、評価と方向性の関係が腑に落ちないところがあります。評価は15ページからあって、方向性は51ページからあります。方向性は今後の目標ということで、ほとんど向上になっていまして、どれくらい有効なのか、もう少し違う表現の方法があるのではないかと思います。元になっているのが評価だと思うのですが、一例として、市民大学の例ですが、24ページのところで、Sと書いてあります。59講座ということですが、54頁に人数は出ていて、人数は減っている。かつて、4300人が27年度は3,300人となっている。開講数が多いということで、Sになっていたり、評価の基準、何を基づいて評価するかというのは再検討、再点検する必要があるのではないかと思います。

市民大学は他のものと同じように方向性は向上となっていますが、評価の仕方と言いますか、あり方と方向性の表示について。もう少し改善の余地があるのではないかと思います。

以前は、評価がちょっとした数字に一喜一憂することになっていましたが、それはあまり意味がないのではということで改善してこういう風になってきたとは思いますが、方向性のページに評価が乗っていないというのもどうかと、評価に基づいての方向性なので、分かれてしまうのはどうかと思いました。

※資料3「文化振興基本計画進行管理結果報告書（案）」の3.文化振興基本計画進行管理表（15ページ～50ページ）、4.文化振興基本計画進行管理（51ページ～61ページ）参照

委員 維持、向上という表現ですね。前にも議論して、評価の仕方に量的評価と質的評価との関連から文化関係だからそぐわないのではないかと、その辺は考えないといけないということだったと思うのです。

表を見る限り、実績値では減っているのに向上、実績値は横ばいだけど維持になっている。同じ実績値だけど維持になっている等、この辺の追加資料はあるのでしょうか。評価を付けられたのには、それなりの検討会議があつてやっていると思うのですが。

事務局 評価は単年度での目標に対する実績の評価と考えています。方向性の部分ですが、文化振興基本計画の中での維持・向上の矢印でやっています。計画期間8年間ある中での目指していく方向性という考えでやっているのです、単年度とはリンクする形にはなりにくくなっている。目指す方向としては、そういう方向

でやっていこうと設定させていただいている部分です。また 4 年たったところで見直しをする必要があるかと思しますので、その際に検討させて下さい。

- 委員 矢印は今のことではなく、これからの事なんですね。
- 事務局 今後、表記は「今後の方向性」と書いていきたいと思います。
- 委員 今後の方向性という意味では、向上を目指していきます、維持は今後横ばいでいきますということですね。ダウンしているのに何で向上なのと言われるといけないので、アンケートなどを踏まえ解釈を加えているのではないかなと思えます。評価委員会の中でもそういった議論があったのでしょうか。
- 事務局 目標については、24 年度を基準値として、現状から下がる可能性が高いかなというものは維持という形、より多くの方に参加していただくような事業については向上と考えてきたものです。アンケートのような細かい事象まではできていないというところ です。
- 委員 99 のだいたい A ランクということで、内容が文字の中に伝わってこなかった。評価の裏付けのようなものが感じられたらいいのではないかと思います。おおざっぱかと思いましたが、説明を聞いてわかりました。
- 委員 方向性のところが理解が難しいと思っていました。評価というものは、市民の方がアンケートで答えたのではなく、文化振興課の方が評価しているということですか？
- 事務局 各事業の評価については、それぞれの事業の所管課による自己評価ということです。平成 27 年度の予定に対して、実績がどうだったかという自己評価となります。この部分については、庁内の専門分科会に諮り、所管課で再確認する仕組みになっています。今回は専門分科会で特に意見はありませんでしたので、所管課の評価が乗っている形になっています。
- 委員 あくまで、自己評価のものを出しているということですね。
- 事務局 庁内の組織の中で諮ってはいますが、今回は特に意見はなかったということです。
- 委員 第三者の方が入って、総合的に評価するという事はないということでしょうか。

- 委員 各事業ごとに評価していますよね。各部署で自己評価、自己点検をしているはずなんですね。アンケートであれば、外部評価をやっている。その結果が反映されて、行政の中で了解を得て、ここに上がってきているということですか。
- 事務局 個々の事業について、そこまでの詳しい説明は求めています。
- 委員 実際の裏付けは各部署のデータが裏付けになっている。各行政のセクションでやっていて、文化振興課の方である程度のものをもってやっているという解釈でよろしいですか。
- 事務局 向上か維持の部分については、そこまでの評価はやっていない。もう少し長いスパンで見ている、8年の計画が終わる時、4年の中間の部分で再評価というのはあるかもしれません。例えば、58 ページを見てください。「景観重要樹木の指定数」を見てください。方向性としては向上となっています。年間少しずつ指定数を増やしていこうということで、24年度19件、26年度12件指定をしました。27年度は景観の審議会からの意見で、数を増やすのではなく、周知の充実ということで、新規の登録はしませんでした。ここの方向性をどうしようということですが、いずれ周知が進めばまた増やしていく方向性を持っていくということなので、当面、向上のままになっています。先日、専門分科会で話をしたところです。少し長い目で見ながら考えていくということですか。
- 委員 初めの方の評価のAとかSなので、自己評価なのであまり悪いことは言わないだろうと思います。向上性に関しては、市民文化遺産の部分、文化財になってしまうとここから外れてしまうので、難しい部分があります。文化財にして保存していこうとなると、今までの市民文化遺産の概念から外れていってしまうので、両方はいかなれないので維持になっている。もっと周知をしていかなければいけないので、方向性としては、上にあげなければいけないが、なかなか難しいところがあります。文化財の活用としてのものと、市民文化遺産という横須賀にしかない制度の難しさはありますね。方向性の部分は、文化振興審議会でも議論して、来年そうになっているかどうかという部分は議論していかないといけないのではないかと思います。市として、文化行政をどう維持していくかを考えるのであれば、さらに前に進めていくかを考えながらやるなら、後ろ側の資料が重要になってくるのだと思います。一番最初の星印がついているついていないという部分については、わかりにくいと思います。

事務局 文化振興基本計画を改定した時に、文化振興審議会委員の皆様
に議論いただきました。問題になったのは指標をどうするか。
文化を数字だけで判断するのは良くないということで、育成す
ることも文化の使命です。そういった場合、方向性を示してい
こうということがあったと思います。ただ、そこだけで判断す
るのも難しい部分もあります。評価の部分は、それぞれの部署
がちゃんとやっているかというチェック機能であって、本来、
文化の持つものは数値とか効率性とかではなく、育成の部分
を重要視するというのも使命だと思いますし、東日本大震災の
時に文化の力が復興を後押しし、文化の力が再認識されました。
そういった面で、数値だけで文化を判断するというものも違
うと思います。後ろにある方向性は大事にしていきたいと思
っています。前半の部分は、それぞれの部課がそれに向かって
努力しているということで、評価していただければと思います、

委員 事業の推進という意味で、向上を使っていらっしゃいますよね。

委員 推進の方がややいいですかね。向上は自分が主体的に
という感じではないと思いますので、自分たちが頑張ってい
こうということであれば推進の方がいいかなと思います。向
上でも悪くはないと思います。

事務局 実際に文化の事業の主体は何かを考えていくと、
事業を行うのは市民の皆さんであると思いますので、そう
いう意味で、推進という言葉で推し進めるのはちょっと強
すぎるかなというところで、上を向くという意味で向上
という形にさせていただければと思います。

【審議事項】

次第4 横須賀製鉄所（造船所）創設150周年記念事業報告について

事務局から資料4により説明を行った。

○質疑応答

委員 事業目的に市内外に発信するとともに次世代に語り継ぐ
ためにとあります。市内は十分すぎるくらい発信しているの
はわかるのですが、市外、例えば、東京やフランス等に発
信したということが見えてきません。具体的に何かあれば、
教えてください。

事務局 市のホームページに特設ページを作ったり、メディアに対して、観光のセクションから積極的にアプローチをして、その期間に番組で取り上げていただくことが多かったです。そのあたりは、36 ページに記載がありますが、NHK の全国放送など広く取り上げていただいたものと思います。広くというのは、どこをターゲットにするというのが難しい部分がありますので、地道にやるしかないのかなと思います。

委員 私個人としては、2015 年、国立国会図書館とフランスの国立図書館が共催で 12 月 14 日に国際シンポジウムをやりました。フランスからフランス人講師が 1 人と東京から 1 人、そして私と 3 人でパネルディスカッションを行いました。私はもちろん横須賀のことをパワーポイントを使って説明しました。東京でフランス人が一番集まる日仏会館で、製鉄所等を含めて 15 日間くらいの写真展を私の個人のコレクションで行った経験があります。かながわ日仏協会の会長のフランス人と交流をしています。見えないところで活動をしているのですが、こちらから本格的にフランスや東京、日仏会館などに横須賀の人が出向いて、そういったところとの共同作業も考えていけるとと思います。日仏会館にはフランス事務所というものもありますし、何かできると思います。

もう 1 つ、今年の 5 月頃にフリーペーパーでパリの zoom Japon という 50 ページくらいのフリーペーパーがあり、そこに頼まれ、ヴェルニーのことを発表しています。そのフリーペーパーを見たというポルトガルにいるフランス人からも連絡がありましたし、いろんな方法でフランスに発信できる方法がありますので、市の方でも考えていただければ、「日本といえば横須賀」というくらいフランスの方に横須賀を知ってもらえるようになってほしいですね。軍事遺産で追浜のことが全く出てこないのですが、追浜は海軍飛行隊の発祥の地なんですね。大正元年に日本海軍が初めて飛行機を飛ばしたのが追浜で、しかもその飛行機がフランスなんですね。それほど、横須賀が海も空もフランスとの関係が強いので、もっと北横須賀の方も PR してほしいですね。地元では航空隊ができて 100 年経ったということで、行政センターの方ではやっていますが、こちらの方にはなかなか届いていないのかなと思います。

YY ポートに行きますと、ペリーと按針のものはたくさんあるんですね。ゆるキャラもありますよね。横須賀製鉄所のものが走水のものしかない。ゆるキャラで、ヴェルニンというものはあるそうではないんですね。横須賀製鉄所関連のものがないので、身近なところで製鉄所を宣伝するものがあると市民により親しまれるのではないかと思います。

委員 参加者の市内と市外の数について、製鉄所の方も基本計画の方も人数だけなんです。市外の方が多く来ていると思われるものについては、市外の方の人数も出てるといいと思います。基本計画で言えば、美術館とか芸術劇場とか、カレーフェスティバルは難しいかもしれませんが、アンケートのような形で把握する必要があると思います。市外でどのくらい認知されているかわかりますし。経費はどの程度かかるかわかりませんが、アンケートを実施して、市外の方が多く見込めるものについては、それが基本計画などに反映されるといいと思います。

事務局 我々もそこまでやりたいなと思っているのですが、非常に難しいものがあります。全ての事業でアンケートを取っている訳ではないですし、大規模イベントについては、何万人規模だと把握が困難です。抽出でアンケートを行ったりはしますが、その程度でやるしかありません。市内と市外の割合、我々も把握したいと思っていますが、やり方が難しいというのが実情です。小さな講座や数百人規模であれば取れますが、何千何万になると取れません。例えば、アンケートを実施すると回収率はだいたい10%以下なんです。その小さな範囲の中での割合は推定するという程度であれば可能ですが、精度を上げたもので市内・市外というのは難しいなと思っています。

委員 これだけのお金を使っていて、効用があったのですかという質問があると思うんです。資料を見ていると市民だけでなく、かなり市外の方が来ているようですし、横須賀線なんかも人が増えていると思います。ヴェルニー公園の中でも多くの人 coming いるようですし、横須賀製鉄所に関する事業そのものとしては成功していたのではないかと思います、いかがでしょうか。

事務局 成否の判断をしていただくのは市民のみなさま方だと思います。ただ、横須賀製鉄所について、知らない市民の方が今まで多かったというのが実情です。横須賀製鉄所により横須賀が発展したという歴史的背景は、この事業を通じて、知っていただいた方が多いと思うのですが、それでも市民アンケートを見ても、まだ半分は知らないというのが実情です。今後、この数字を上げていくためにどうしたらいいのかというのは課題だと思います。今回は学校教育に重点をあてて、継続的な取り組みをしよう、一過性にしないということで子ども向けの小冊子を全小学校の6年生に配布していますし、今後も引き続き配布していきますし、出前授業も行っていきます。小学校で活動をしていけば広

がっていくと思います。そのような地道な取り組みが、横須賀の発展の歴史や郷土愛を育んでもらえるのではないかと思います。今後の期待も込めて、自己評価ではやることはやったという気はするところです。

委員 50周年の時は新聞記事にもかなり取り上げられて、市民の盛り上がりもすごかった。市が各戸に提灯を配って、夜になると軒下に出していた。今回は研究発表やパネル展が非常に多かったですね。

京急の中に品川遺産事始というポスターがあったのですが、それと同じように。京急に広告を出せば、いい宣伝になるのではないかと思います。

事務局 今回、京浜急行に中吊りや駅貼りのポスターを出したり、かなり多くやりました。パレードなどを含め、新聞折り込みを入れたりもしました。しかしながら、若い世代は認知度が低く、特に20代、30代の認知度が低いのは実情です。今後、その辺の世代にどうやって目を向けてもらえるかが課題だと思っています。

委員 私の記憶では平成26年に補正を組んで、すごい勢いで始まったものでしたが、素晴らしい結果になったなと思います。テーマがテーマなので、ターゲットは難しいと思います。若い世代や女性が横浜などから行ってみたいと思うかというテーマ自体がちょっと難しいところかなと思います。そう考えると、周辺のものでセットになるともう少し人も引き付けられたかと思いますが、この期間でこれだけのものというのはすごいものだなと思います。

事務局 若い世代は食やお土産などがセットになると注目し、来ていただけたと思います。市は観光にも力を入れていますが、歴史的なものに食なども入れながら人を呼び込んでいくというの必要なのかなと思います。

委員 製鉄所があった場所は若い人でもすぐ来るんですが、日本の近代産業との関わり合いとなるとなかなか難しい。プラタモリがあって、ものすごい人が来てというのはありますが、それをどういう風に繋げていくかが課題だと思っています。

記念館三笠が艦コレと連携して、8万人まで落ちていたのが年間20万人くらいまで増えてきている。やはりヴァーチャルの世界で、遊びながらやっていただかないとダメなのかなと思います。今度は戦艦大和の実物大が見られるものをやるみたいですし、そういう関係のものをやっていいかないと難しいのかなと

思います。ただ、市でやるのは難しいのかなと思いますし、観光なり企業なりがやっていくものなのかなと思います。

小学校の出前授業をやっていますが、小学生の食いつきはすごいといいですし、面白がって聞いてくれるし、これは続けていかなければいけないと思います。子どもたちが5年、10年たって、忘れずに横須賀の面白さや良さを感じてくれると少し変わってくるかなと思います。

そういった意味で、何か1つターゲットになるような資料館があればなというのが希望です。横須賀に来て、記念館三笠、ベースを見ても、さらに深めようというものがない。近現代の歴史は横須賀から始まっているという資料館みたいなものがあるといいのではないかと思います。呉の大和ミュージアムのようなものがあるといいなと思います。

委員 日本遺産の認定、横須賀製鉄所についてはSNSで知りました。SNSなどを利用して、横須賀製鉄所関連の催し物であったり、グッズを出すならグッズで発信していく手立てがあれば、若い世代にも届けやすいのかなと思います。

小学校への出前授業の話ですが、小学校10校実施とのことですが、6年生と4年生に実施しているということですが、なぜ6年生と4年生に実施したのかなというところを教えてください。今後の予定として、中学生にも行うなど予定があればお聞かせ下さい。

事務局 出前授業については、去年はまず小学校から始めさせてもらい、募集をかけて、手を挙げてもらいました。歴史の授業で近現代、製鉄所の時代をやるのが6年生なので、6年生を想定していました。6年生の申込もありましたが、4年生の総合学習の中で、地域の歴史を勉強したいという学校があり、4年生にも出前授業に行ったというところでした。

委員 4年生は総合学習で、横須賀をもう少し掘り下げようというテーマで、この話になったということでした。4年生も6年生と同じような授業をしても大丈夫でした。6年生も10月くらいの時期に明治時代に入るくらいの授業なので、10月、11月で重なっていて、この時期にやっています。全体でやることもあれば、クラス毎にやってほしいという希望も出ているところです。身近なところで身近な話をしてほしいということのようです。小学校の理解度は高いと思います。

事務局 今後、中学校も対象にしたいと考えています。ただ、中学校は受験もありますし、なかなか授業で取り上げてくれるのかなというところもあります。小学校が落ち着いたところで中学校に

も取り組んでいきたいと思っています。

委員 子ども向けには船もいい材料だと思います。横須賀製鉄所で明治8年に造られた木製の船やアマギという軍艦などは日本人が造った船として、非常に古いものだと思いますので、いいグッズになると思います。写真も残っていますし、ミニチュアとかいろいろできるのではないかと思います。

委員 戦艦陸奥の主砲が戻ってきまして、ヴェルニー公園に移設されましたし、今後、そういう何かグッズを作るというのも1つかなと思います。

委員 横須賀でスタートした船は結構あると思います。そのところ、もう少し発掘して、黒船に限らず、欧米の船を並べ、戦艦や軍艦だけでなく、海の手をアピールしていけばいいのではないかと思います。
軍港という面はありますが、海軍という国際的なものがありますので、違った見方ができて、文化行政のあり方や見方も幅広いのではないかと思います。
今回、150周年記念に限らず、数年おきにやってもらえるといいなと思います。この事業は素晴らしかったと思います。

【審議事項】

次第5 その他

「施設配置適正化計画」（概要版）

「文化会館・はまゆう会館配置適正化実施計画」（素案）の概略を説明・報告

質疑応答は特になく、審議会は終了した。